

令和5年度 姉妹都市交流「学校新聞特派員」

学校新聞特派員報告書



令和5年8月3日(木)、4日(金)

派遣地 姉妹都市 茨城県北茨城市

中野市立豊田中学校

茨城県北茨城市について

昭和31年に県下15番目の市として誕生した北茨城市は、茨城県の最北端に位置し、南は高萩市、北は福島県いわき市と接しています。また、市の総面積の約32%は山林で、東部は低地で海岸に面し、市内を流れる大北川、里根川などの流域には、豊かな平坦地がひらけています。古くから農業や漁業を中心に栄えましたが、江戸後期に石炭が発見され、常磐炭田の中核として活況を呈し、今日では、工業地帯として飛躍的な伸展を見せています。また、平潟・大津・磯原地区では、温泉・鉱泉が湧き出し、民宿・旅館が立ち並ぶ観光の名所となっています。

(北茨城市HPより引用)

北茨城市立常北中学校との交流

僕たちは2日目の8月4日（金）に茨城県北茨城市立常北中学校の役員の皆さんと交流をしました。最初に簡単に自己紹介を行いました。豊田中学校の役員は全員3年生なのに対し常北中学校は2年生も役員になっていることに驚きました。

お互いの学校紹介では、常北中は放課後に全校で体力づくりのためのマラソン等の取り組みをしているくらい、運動に力を入れている学校ということがわかりました。生徒数は198人と豊田中より少し多く、部活動も盛んなようでした。実際に僕たちが常北中学校を訪れた際には、サッカー部やテニス部などが暑い日差しの中でも練習に励んでいました。他にも豊田中とは違うところがたくさんあり、生徒会を運営するうえで参考にしていきたいです。

また、僕たちは学校の紹介の中で昨年度の小鮎祭の全校合唱「ふるさと」を流しました。常北中学校の皆さんが真剣に聞いてくれて嬉しかったです。

学校紹介のあとはすごろくトークをしました。一人一人の好きなもの、今頑張っていることなどを知ることができました。時間が足りずに途中で終わってしまったけれど、各学校の先生のモノマネなどを見ることもできてとても楽しかったです。互いに打ち解ける時間となりました。

次に「風月堂」というお店の人に来ていただいて名物の五浦最中を作りました。北茨城市にある六角堂という建物をモチーフにした最中をつくりました。また、あんこはこしあんとのりの風味を感じられる磯あんを使いました。僕はあまり上手にはできなかったけれどとても美味しかったです。

その後常北中学校の吹奏楽部の演奏を聞きました。2021ヒットメドレーと「青と夏」を吹いてもらいました。迫力がとてもすごく心に残りました。

次は学校を出て長浜海岸というところに行き磯遊びをしました。太平洋と触れ合ってきました。とてもきれいな海でしたが、今は北茨城市内には、海水浴をできる海岸はないということに驚きました。終わった後の体についた砂を落とすのがとても大変だったけれど楽しかったです。



その後よう・そろーを見学しました。北茨城市で5年に一度開かれるお船祭りで実際に使われる船を見たり、北茨城市から広まっていったあんこの生態を教えてもらったりしました。船はとても大きくこれをお祭りで引くとなると相当大変なことが見当付きました。最後に常北中の皆さんとご飯を一緒に食べました。海鮮料理がたくさんあってどれも美味しそうでした。お腹いっぱい食べた後に常北中の皆さんとお別れをしました。短い時間の中でもとてもいい交流ができたと思います。

北茨城市の文化について

野口雨情

私たちははじめに県指定文化財でもある野口雨情生家を訪れました。

「七つの子」や「しゃぼん玉」などの童謡や、「磯原節」「磯原小唄」といった新民謡でも知られる野口雨情は15歳で上京するまではここで過ごしました。今は野口雨情、直筆の掛け軸や原稿をはじめ貴重な資料の数々を見ることができます。また、中山晋平とも関係が深いため2人の実際の写真なども置かれていました。さらに雨情の実の孫でもある野口不二子さんのお話もお聞きしました。野口雨情さんのお孫さんと聞いた時には、今もお元気なんだなということに驚きました。不二子さんから当時の様子や中山晋平さんと詩と音楽で繋がった関係などを聞き、より深く野口雨情について知ることができました。野口雨情生家のある磯原は東日本大震災の時には6メートルもの津波の影響を受けたそうです。雨情生家も被災し、それでも何があっても野口雨情の残したものを守らないといけないという思いで不二子さんはやってきていて、想いの強さを感じました。

不二子さんのお話は、常に熱血に話をしている野口雨情を未来にも残していきたいという熱い思いが伝わってきました。不二子さんの人柄がすごく印象に残っています。

野口雨情記念館では雨情の年表や貴重な資料などを見ることができました。



岡倉天心

晩年を北茨城市の五浦岬で過ごした思想家岡倉天心の記念館にも訪れました。岡倉天心が生きた時代は、日本も開国し近代化して、日本の価値や国力を世界に示さなくては生き残っていけない激動の時代でした。そんな時に天心は日本美術を再発見・再定義し、文化的な面から日本を世界に伝える役割を果たしました。

また、ごつごつとした岩がそびえる五浦の、崖の上の赤い小さな建物の六角堂も岡倉天心が関係しています。六角堂は明治時代に岡倉天心が思索の場所として自ら設計したものです。残念ながら東日本大震災の際に一度流失してしまったのですが、今は元通りに再建されています。この六角堂の中から綺麗な海を眺めて、岡倉天心はどんなことを考えたのか気になりました。



そして私たちは続けて茨城県天心記念五浦美術館を訪れました。岡倉天心、横山大観をはじめとする五浦ゆかりの作家業績を学びながら、優れた作品を鑑賞することができました。美術館の方から「天心さんからの挑戦状」というワークシートをもらい、これをもとに、よりじっくり作品を見ることができました。

印象に残っている作品は木村武山の歴史画「阿房劫火」です。3ヶ月燃え続けたとされる「阿房宮」の火がとても迫力のある様子で描かれていて壮大さを感じる作品でした。

北茨城市の自然に触れて

北茨城市は太平洋に面しているので常に海からくる潮風が吹いていました。長野のような熱気がたまりやすい盆地とは違い、潮風の影響で熱気がこもらなく、思っていたよりもずっと涼しかったです。ただ、風が強いから雲が流されて直射日光が痛いくらいでした。

北茨城市には中野市では見られない自然がたくさんありました。

僕たちは雨情生家を見学したあとに甘妃山という茨城市県で二番目に低い山（標高約21m）に登りました。野口雨情が子どもの頃に遊び場とし、あの有名な水戸黄門も登ったとされるその山は、山というよりは丘のような感じで、豊田中学校前の桜坂を登るよりも簡単に頂上へたどり着きました。頂上から見る水平線はとてもきれいで、野口雨情も水戸黄門も同じ景色を見たのかなと思うと、自分もその二人に近づけたような気分になりました。



その後は、磯原海岸を歩いて野口雨情記念館へ向かいました。途中に野口雨情直筆の歌碑「松に松風 磯原は 小磯の蔭にも 波か打つ」があり、雨情はどんな思いでこの磯原海岸の波打つ様子を見ていたのだろうと気になりました。

僕たちがこの日に見た磯原海岸沿いの海はとてもきれいで、すぐにでも中に入って泳ぎたくなくなるくらいでしたが、近くで見ると意外と波の迫力がありました。磯原海岸へ来る前に東日本大震災の津波の話野口不二子さんや市の職員の方から聞

いていたので、もし津波が起こり目の前の海の様子が変わってしまったら、その怖さは計り知れないなと感じました。

北茨城市は東日本大震災の際、推定7メートルの津波に襲われたそうです。北茨城市の海には二ツ島と呼ばれている元々二つの島があったのですが、津波の影響で小さい方の島が見えなくなってしまうというお話を聞いて、地震の規模の大きさを目の当たりにしました。岡倉天心ゆかりの六角堂も津波で一度流失してしまったそうです。

津波による被害を風化させないための取り組みが、見学先のいたるところにありました。磯原海岸には防波堤が設置されていましたし、五浦岬公園というところには展望慰霊塔が作られていました。慰霊塔の鐘を鳴らしながら、海とともに生きる人たちの努力を感じました。

姉妹都市として、中野市と北茨城市が繋がっているのだから、もし災害などが起きたときは互いに助け合える関係になっていけたらいいなと思います。

北茨城市との交流を終えて

北茨城市の方はとても僕たちを温かく歓迎してくれました。

市長さん、野口雨情のお孫さんの不二子さん、夕飯を食べに訪れたお店の方たちまで、皆さん北茨城について語るときは熱がこもっていて地元愛に溢れていることを感じました。そんな素敵な方達がいる北茨城市を知ることができてとても良い経験になりました。



北茨城市へ出発！



北茨城市、磯原駅到着



北茨城市長表敬訪問



磯原海岸にある野口雨情の歌碑



野口雨情記念館前



天心ゆかりの六角堂をバックに



夕飯を食べたお店で歌を楽しむ



とても素敵なお店でした！



野口不二子さんが絶賛していた月。煌々と輝いています。



常北中学校の皆さんと最中作り



餡をたっぷり詰めました。



長浜海岸で磯遊び



みんなでビーチバレーを楽しみました



よう・そろーにあるあんこうゲーム



おいしい海鮮丼をいただきました！